

平成 30 年度一橋大学法科大学院入学者選抜試験

小 論 文

・ 解答上の注意

1. 問題用紙は 10 頁、解答用紙は 1 枚（表・裏）、下書用紙は 1 枚です。
2. 解答用紙に、一橋大学の受験番号を記入してください。氏名は絶対に記入しないでください。
3. 解答は横書きにしてください。
4. 解答用紙は、受験番号を記入する面が表になります。問 1 を表に、問 2 を裏に解答してください。解答用紙は、白紙である場合も含め、すべて提出してください。
5. 解答用紙の追加、交換はしません。
6. 解答用紙の余白は採点者が使用するので、誤字脱字の訂正のほかは使わないでください。
7. 問題の内容についての質問には、応じません。
8. 試験終了後、問題文と下書用紙は、持ち帰ってください。

問題

〔問題文〕を読んで、問1、問2に答えなさい。

問1 本文全体を読んで、下線部(A)「保守」とはいかなる意味か、本文中において筆者が行っている議論をもとに、説明しなさい。(句読点も1字と数え、800字以内とする。)

問2 「普遍」と「伝統」のあるべき関係についての筆者の考え方を踏まえたうえで、任意の具体例を1つ挙げて、これに対する自身の考えを述べなさい。(句読点も1字と数え、1,000字以内とする。)

〔問題文〕

(この問題は著作権の関係により、文章の出典と引用箇所のみを表示します。)

【〔問題文〕は、樋口陽一『いま、「憲法改正」をどう考えるか——「戦後日本」を「保守」することの意味』(岩波書店、2013年)からの抜粋である。原文の一部を省略し、表記を変更した箇所がある。】